

北京外国語大学 北京日本学研究中心
絵巻セミナー（2019年2月26日）

絵巻入門—物語を伝える色と形

講師 共立女子大学文芸学部教授 山本聡美

1. 絵巻観賞の基礎知識
2. 絵巻の色―絵の具の基礎知識
3. 絵巻の詞と絵―「源氏物語絵巻」蓬生帖
4. くずし字を読む―「信貴山縁起絵巻」
5. 絵巻文化の奥にある中国

図版出典： 小松茂美編『日本絵巻大成』1・2・4・6・7（中央公論美術出版、1977年）
徳川美術館編『源氏物語絵巻』（徳川美術館、1995年）
佐野みどり『じっくり見たい『源氏物語絵巻』』（小学館、2000年）
山本聡美・西山美香編『九相図資料集成』（岩田書院、2009年）
なお、一部に所蔵者の許可を得て山本が撮影した画像を含む

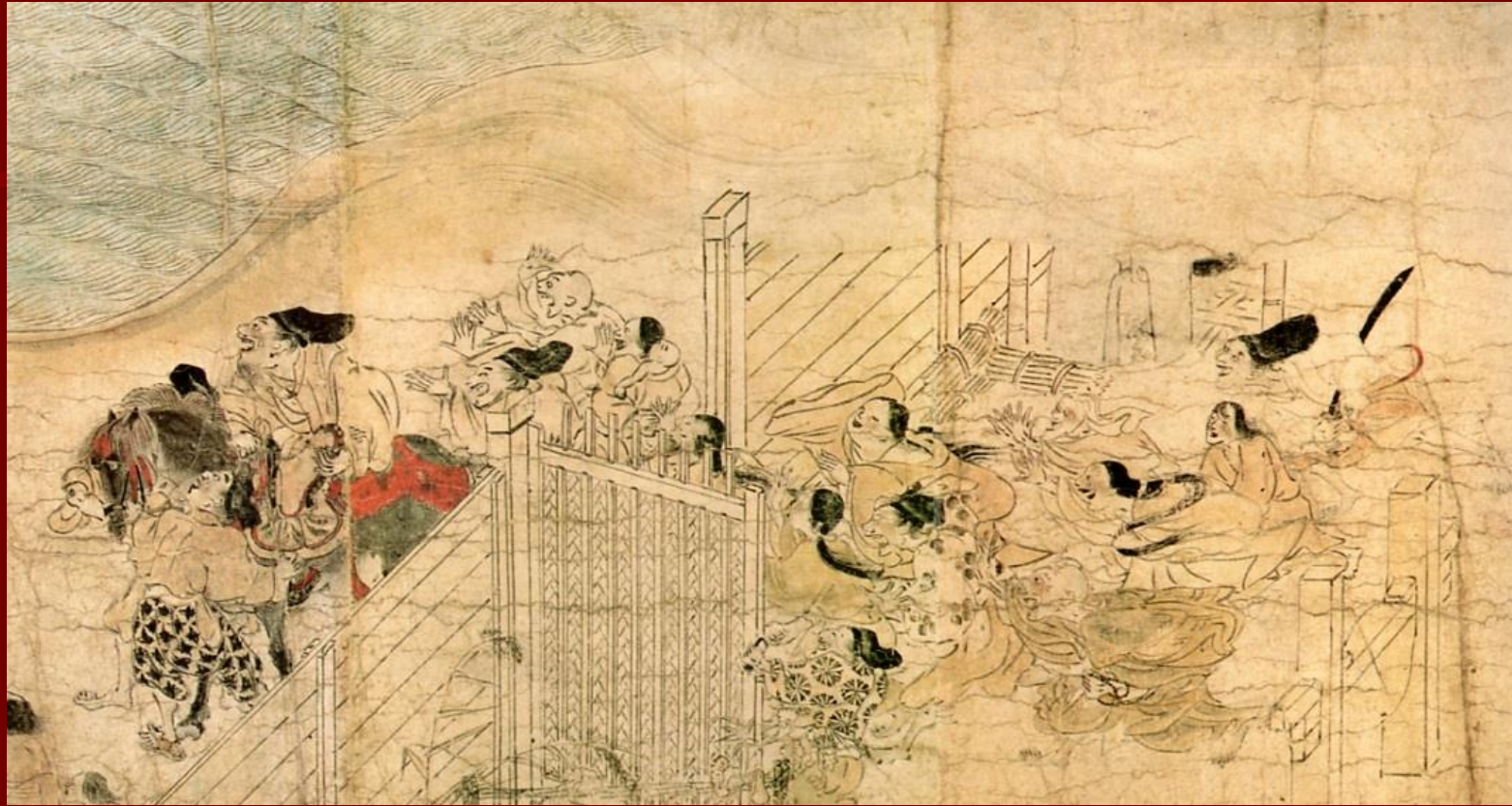
1. 絵巻観賞の基礎知識

- 中国の卷子や画卷に源流がある。
- 唐時代（618～917）には、山水（風景画）を描く媒体としても発展する。
- 遣唐使などを通じて日本にもたらされる。



■源氏物語絵巻

名古屋・徳川美術館／東京・五島美術館他所蔵



■ 信貴山縁起絵巻
奈良・朝護孫子寺所蔵



■ 伴大納言絵巻

東京・出光美術館所蔵



■ 鳥獸人物戲画卷
京都・高山寺所藏

■場面転換の工夫

横長の場面を、建物や樹木などで効果的に区画する。



■異時同図法

同一場面に同じ登場人物を繰り返し描き、時間の推移を表す。



例「伴大納言絵巻」中巻 子供のけんか

■異時同図法

同一場面に同じ登場人物を繰り返し描き、時間の推移を表す。



例「伴大納言絵巻」中巻 子供のけんか

■吹抜屋台



屋内での出来事を描くために、建築物の天井や屋根を省略する。
例「源氏物語絵巻」四十四帖「竹河」

■ つくり絵

まず墨線で下描き、その上から濃彩で余白なく塗り、最後に人物の目鼻や輪郭線などを描き起こす絵画技法。

「源氏物語絵巻」 竹河



■ 引目鉤鼻



「源氏物語絵巻」竹河

つくり絵に独特の人物の面貌描写。
特に貴族階級など身分の高い人物を表す。

2. 絵巻の色－絵の具の基礎知識

顔料に触れてみよう

3. 絵巻の詞と絵―「源氏物語絵巻」蓬生帖



―光源氏は従者惟光と共に、偶然、末摘花のもとを訪れる。

6末摘花

光源氏が常陸宮家の姫君と
出会う。

【末摘花との出会い】

12須磨・13明石

帝への謀叛の嫌疑を晴らすために、光源氏
は自ら須磨・明石へ隠棲する。

【恋人達との別れ・新しい出会い】

15蓬生 その1

赦されて都に戻り、再び栄華
を極める光源氏。

15蓬生 その2

かつての恋人達のもとを訪
れ、関係を回復する光源氏。

【恋人達との再会】

15蓬生 その3

【ひとり忘れていない？】

[illegible]

4. くずし字を読む

—「信貴山縁起絵巻」(奈良・朝護孫子寺蔵)



上巻・・・飛倉巻

中巻・・・延喜加治巻

下巻・・・尼君巻

倉は、信貴山の方角へ運ばれていく。



信貴山には妙連の庵がある。米俵を返して欲しいと願う長者の
使い。





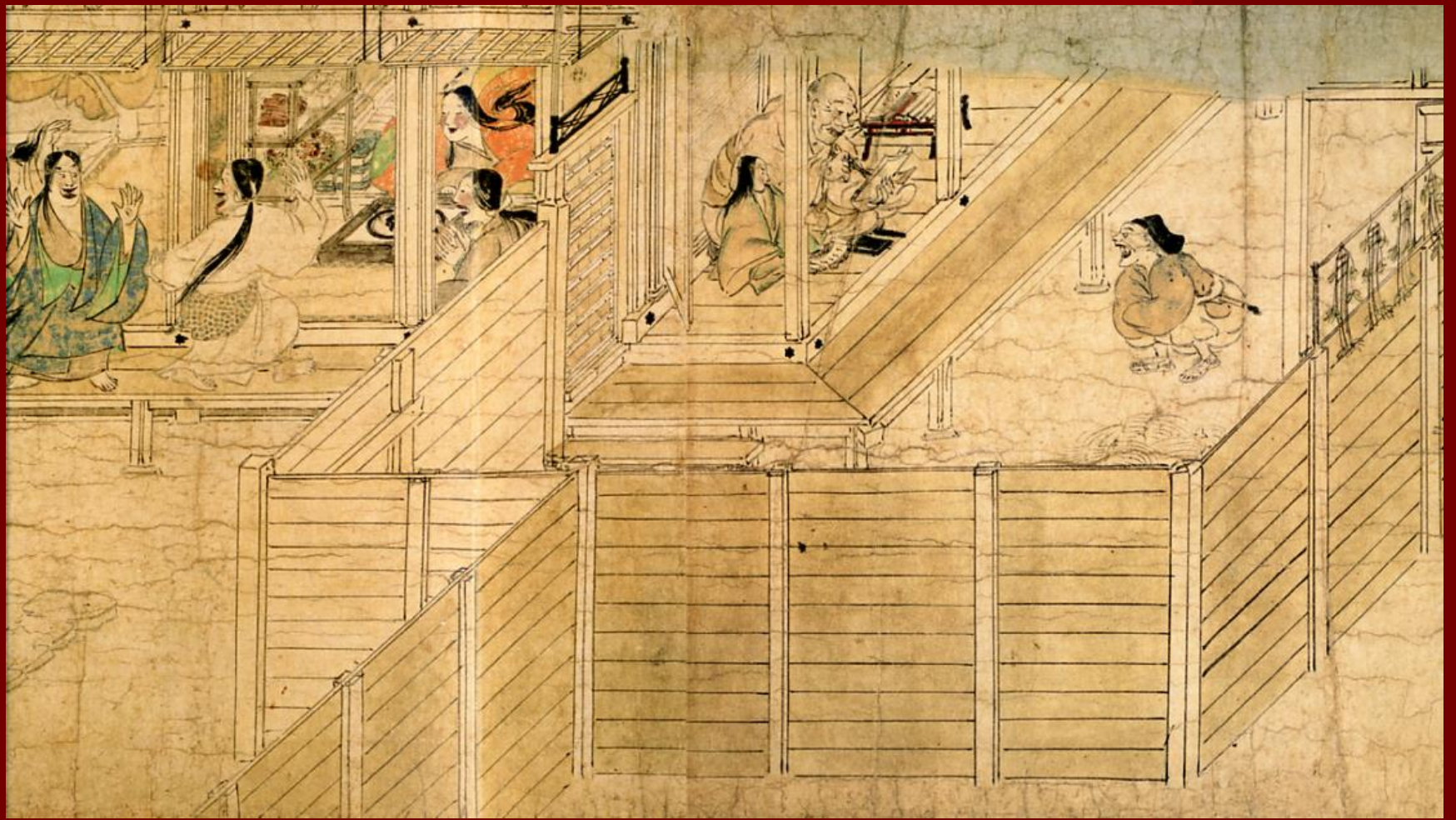
詞書①

※この場面に該当する詞書が、中巻にある

この鉢に米を一俵載せて飛ばす
に、**雁などの続きたるやうに**、残り
の米ども続き発ちたり。また、**村雀**
などのやうに続きて、確かに主の家
に皆落ち往にけり。









5. 絵巻文化の奥にある中国



「地獄草紙」 髪火流地獄
(12世紀後半、東京国立博物館蔵)

復有異処、名髮火流、
是彼地獄、第三別処、
衆生何業、生於彼処、
彼見有人、殺生偷盜、
邪行飲酒、樂行多作、
彼人則墮、叫喚地獄、
髮火流処、殺盜邪行、
業及果報、如前所説、
何者飲酒、優婆塞五戒人
辺、
説酒功德、作如是言、
酒亦是戒、令其飲酒、
彼人以是、惡業因縁、
身壞命終、墮於惡処...

→またこの地獄に別所あり、名をば髮火流といふ

→このところの衆生、昔人間にありて、殺生偷盜邪淫、

→およびまた五戒をたもちたる人のまへにして、
酒を飲むはめてでたき戒なりと言ひて酒を与へて
戒をやぶらしめたりしものこの地獄に墮つ(後略)





「九相図巻」(13世紀、九州国立博物館蔵)

観想＝イメージトレーニング、瞑想、坐禅

不浄観・・身体や死体の穢れたありさまをイメージし、執着に値しないものであることを知る。

九相観・・不浄観の一種で、死体の不浄を九段階に分けて観想する。

不浄観から浄土観へ展開することで、煩惱に惑わされずに成道・成仏を目指すことができる。

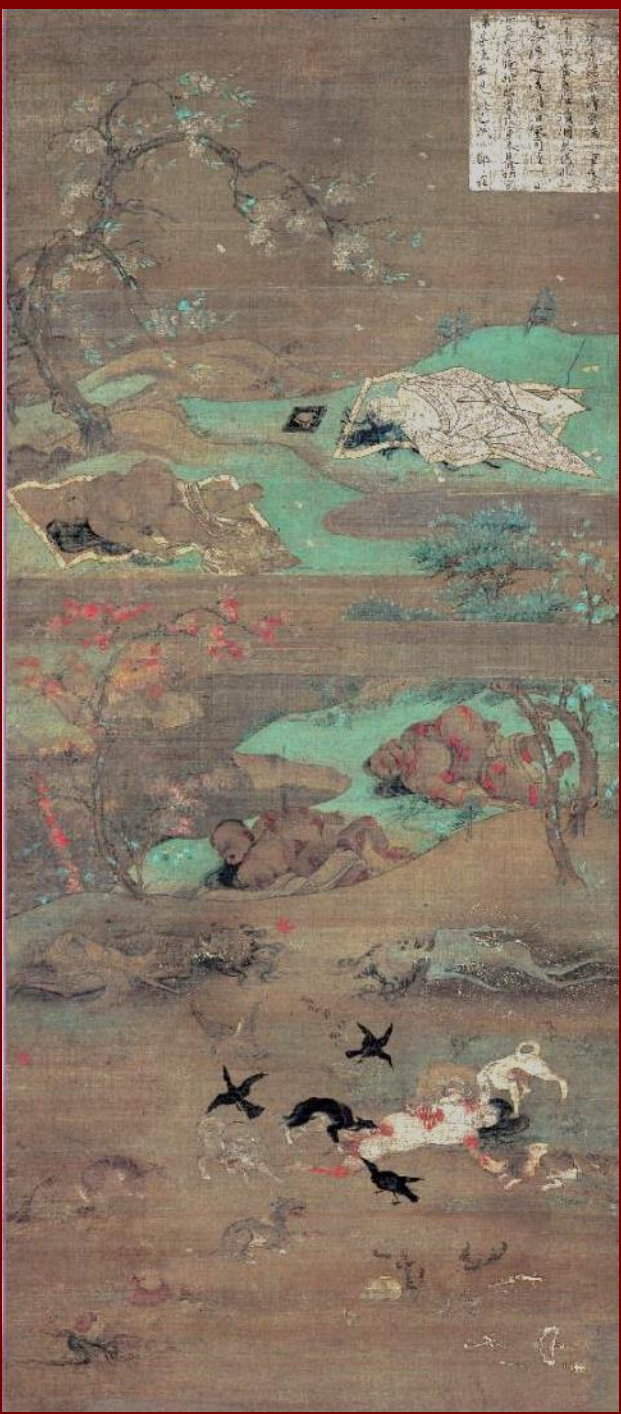


3 脹相(ちょうそう)—『摩訶止観』の経説に忠実な描写

死屍の顔色は暗黒、身体は洪直して手足が花びらのように開いている、また皮の袋に風を盛ったように膨脹し、九つの孔より体液があふれ大層けがらわしい、これを見た修行者は自らおもう、我が身もかくの如し、未だ執着を断ち切ることのできない愛人もまたかくの如し。

六道絵」

滋賀県・聖衆来迎寺蔵、鎌倉時代（13世紀後半）
人道不浄相幅





聖衆来迎寺「六道絵」人道不浄相には、四季のモチーフがふんだんに描きこまれている。



九相図の背景にあった不浄の思想が、中世日本では「無常観」へとよみかえられていく



空海(774～835)に仮託される「九相詩」と呼ばれる漢詩が、空海高弟の真済(800～860)が編纂した『性霊集(しょうりょうしゅう)』に収録されている。

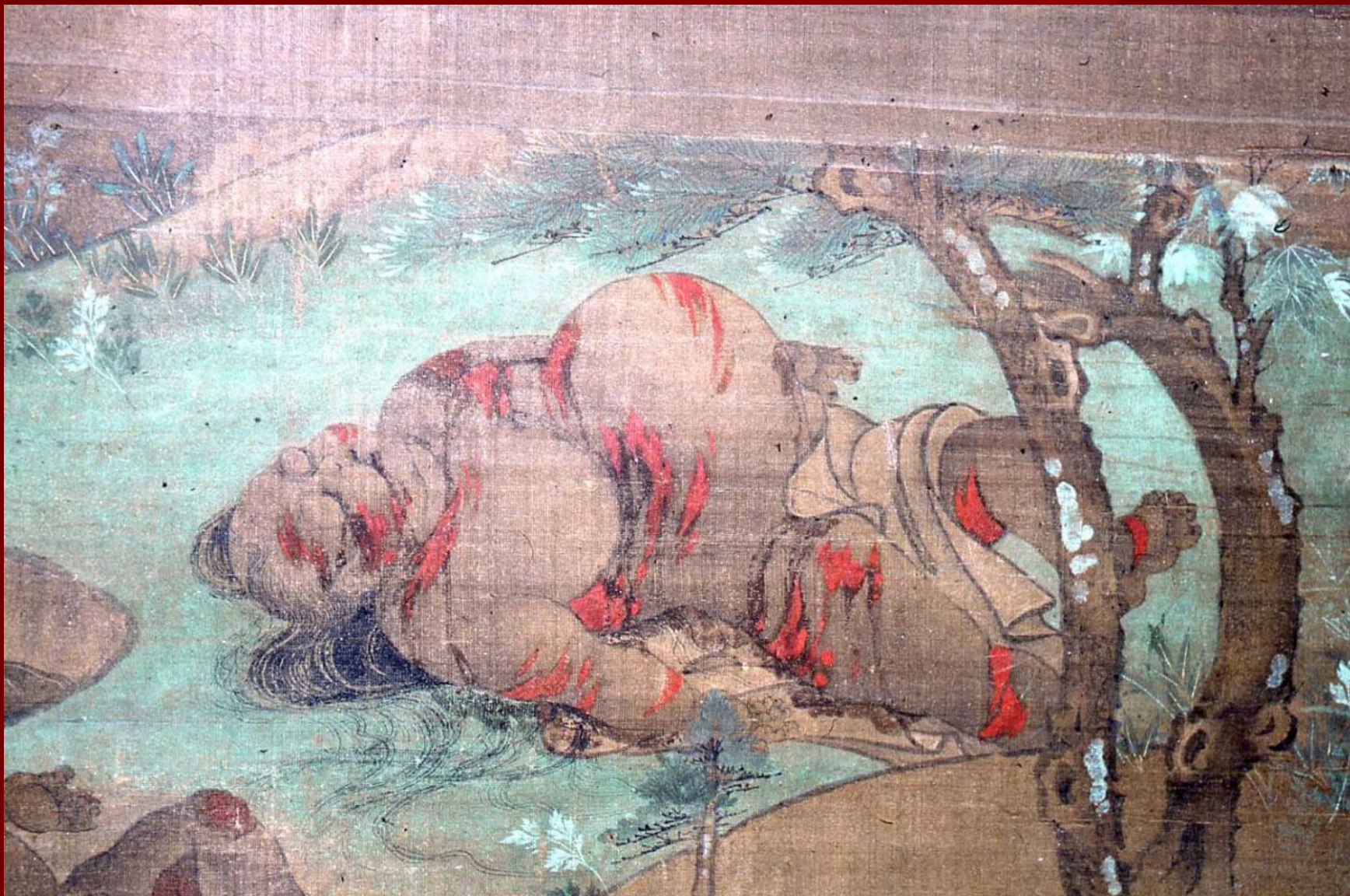
現存する『性霊集』十巻は、承暦三年(1079)に仁和寺の済暉(1025～1115)が、佚文を『続遍照發揮性霊集補闕抄』(『性霊集抄』)として三巻に編み、他の七巻と併せて復元したものである。

肝心の「九相詩」は、第十巻の末尾に収録されているため、佚文集編纂時期頃の偽作とする見方が有力。

岩瀬文庫所蔵『性霊集抄』
寛永八年(1631)刊行

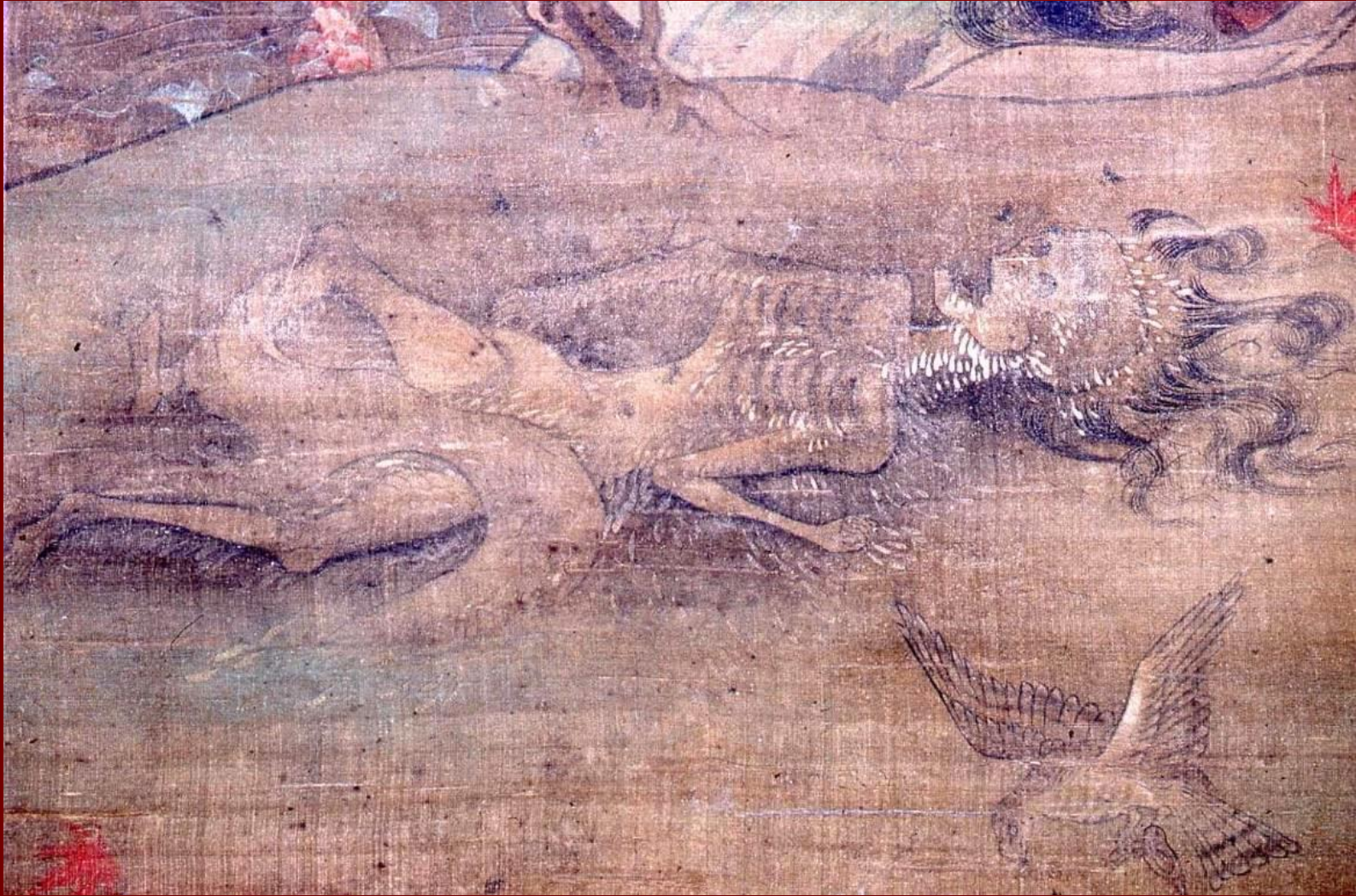


①蕭瑟秋葉満／蕭瑟として秋の葉満つ



②裸衣臥松丘／裸衣にして松丘に臥せり

白④蠕孔裏蠢 青蠅飴上飛



④白蠕孔裏蠢、青蠅飴上飛
／白蠕は孔の裏に蠢く、青蠅は飴の上に飛ぶ

「九相詩絵巻」の成立



「九相詩絵巻」

文亀元年(1501)

九州国立博物館蔵

序文・・・伝 蘇東坡(蘇軾)作の漢詩



画中の和歌

さかりなる花のすがたも散りはてて
あはれにみゆる春の夕ぐれ

花もちり春も暮れゆく木のもとに
命もつきぬ入あひのかね